

3. 地域に「本人中心のケア」の実践の拠点作りを

在宅介護の質を高めていくためには、「本人中心のケア」を実践しているモデルが不可欠である。良質な在宅介護推進のためにも、グループホームやユニットケア等「本人中心のケア」を取り入れたサービス機関の地域での整備を進め、それらを在宅介護の体験学習の場として活かしていく取り組みが求められる。

4. 地域に痴呆介護のスーパーバイズのしくみを

介護家族への相談・助言と同時に、介護支援者の危機の予防をはかったり、随時の助言・実践的な力量の向上をはかるために、地域に痴呆介護のスーパーバイズがいることの意義が大きいことが今回の調査を通して示唆された。

県レベルで育成が進んでいる痴呆介護指導者、ならびに痴呆介護実務者研修修了者等を中心に、今後、地域で痴呆介護のスーパーバイズを育成し、活かす仕組みを創設していくことが求められる。

F 資料

資料1：介護家族に対する半構成面接の調査内容

1. 痴呆の本人と介護家族（調査対象者）との関係について（年代を追って）
2. 本人の痴呆に気づかれたきっかけは？
3. 痴呆に気づいて以降、看取りにいたるまでの本人の状態の経過、家族の受け止め方、家族が行った介護について（自由に語ってもらい、不足部分を質問）
4. 介護する上で、混乱や対応上苦慮した体験は？
5. 経過の中で、受けた介護サービスは？
6. 経過の中で、介護家族が痴呆ケアに関連して学んだ体験は？
7. 経過の中で、痴呆ケアに関連して知りたかったこと、身につけたかったことは？
8. 受けた介護サービスに関連して満足な点、不満な点は？
9. 受けた介護サービス以外で、欲しかった支援は？
10. その他、在宅介護の継続や生活の質の向上をはかるために必要なことは？

資料2：介護支援者に対する半構成面接の調査内容

1. 在宅の痴呆ケースのこれまでの介護体験について（年代を追って）
2. これまでの在宅の痴呆ケースを介護する上で、混乱や対応上苦慮した体験は？
3. 痴呆ケースの介護支援に関して、受けたスーパーバイズ等は？
4. 経過の中で、痴呆ケアに関連して学んだ体験は？
5. 経過の中で、痴呆ケアに関連して知りたかったこと、身につけたかったことは？
6. 行った介護サービスに関連して満足な点、不満な点は？
7. その他、痴呆ケースの在宅介護の継続や生活の質の向上をはかるために必要と思われることは？